

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775003151		
法人名	有限会社 さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ		
所在地	東大阪市加納2丁目12番7号		
自己評価作成日	平成29年8月8日	評価結果市町村受理日	平成29年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私どもさざなみでは、入居者様お一人おひとりの人格を尊重し楽しく自分らしくありのままに生活していただくことを目標としたケアを実践しています。家庭的な雰囲気を入居者様ご家庭の居間にいるような雰囲気を作ることを大切にしています。また看護師、主治医、訪問歯科、薬局と密に連携し、細やかな健康管理を心がけています。食事は毎日近くのスーパーで季節の新鮮な食材を購入し、楽しんでいただけるよう工夫しています。また、入居者様には、食事や生活の様々なシーンで、お手伝いしていただいたり、出来る部分はお願いし、生きがいをもちて毎日をご過ごしていただけるようお手伝いしています。毎月の行事や、地域の行事に参加することによって地域の方や入居者様、職員や職員の家族も含めて人との触れ合いを大切にいつまでもお元気で過ごしていただけるよう支援している。毎月の職員会議・内部研修では、一人ひとりの意見を大切に問題点や良い点を共有したり、検討をして、サービスの質の向上をめざしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通量の多い主要道路から、ちょっと中へ入ると田畑や静かな住宅街がある中に、三階建て「さざなみ香香館」の2階部分に当事業所がある。事業所は開設して14年。「楽しく、自由に、ありのままに」を法人理念として利用者主体の生活支援を目指している。職員は利用者がこのホームを第二の「我が家」と感じて頂けるよう、利用者と同じ目線にたつて、笑顔を忘れず楽しい家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。毎日の食事は専門のスタッフによる新鮮な旬の食材を活かして、毎食美味しい手作りの食事が提供されている。緊急時では同建物が併設されているかかりつけ医が即サポート出来るので、利用者、家族に安心感を与えている。「今のままがずっと続いてほしいと願っている」と話す職員の想いが伝わってくる。利用者・家族・職員間の関係も良く、地域との繋がりを大切にしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・自由に・ありのままに」の理念の基職員は入居者様と接している。朝礼や会議の勤務の中で共有しながら、職員心構えを持って新し取り組みを行い理念の実践に心がけている。	「楽しく、自由に、ありのままに」の法人理念を朝礼時に唱和し、日頃のサービスケアについては月1回の職員会議時に話し合うなど管理者、職員は、理念を共有して実践につなげている。	開設当初から法人の理念を掲げている。2006年に制度改正された地域密着型サービスとしての役割を目指した内容で、地域や利用者のニーズ、事業所の現状に合った言葉で表した事業所独自の理念創りが課題である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に地域の方々と挨拶をしたり話をすることで、日常的な付き合いが出来るように努めている。自治会に入っており、地域の行事には入居者様の負担にならない範囲で楽しんで参加していただけるように努めている。	自治会に入会して、利用者に無理のない範囲で地域の夏祭り、秋まつり、地域の触れ合い喫茶等利用している。日常的に近隣を散歩する時、出会う地域住民と挨拶を交わしている。春には近くのれんげ畑で保育園、幼稚園児との戯れる機会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では地域の老人会の方や事業所と情報交換をし、イベントに参加したり認知症の方への理解をして頂けるようように助言をいただきながら心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回行い地域包括支援センター、近隣グループホーム、入居者様、ご家族様のそれぞれの代表の方に参加して頂き、行事報告や事故、サービス等の様々な報告を行い、地域に開かれたサービスで質の向上に努めます。	2か月に一回、老人会会長、地域包括支援センター 利用者、家族、地域グループホーム 管理者、職員で開催している。事業所から活動報告、行事、取り組み、職員研修等の報告をし、参加者からの意見、要望、提案などを活かしながらサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、何かあればすぐに協力できるように質問、相談等があればすぐに連絡を取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の介護認定課、生活施設課、福祉課などに、書類申請や現状報告を出向いて伝えている。何かあれば気軽に電話を入れたり出向いて、協力関係を築くよう取り組んでいる。介護相談員一名を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員を施設長とし。研修や職員会議等において、身体拘束の防止に向けた取り組みを行っている。また、昨年度より本体制も作られ一層の取り組み、相談、研修が行われるようになった。	施設長自ら、身体拘束委員長として身体拘束防止の研修を実施し、日常生活の中で知らない間の拘束(同じ姿勢を長時間させている等)を早く見つけ直すなど、身体拘束に向けて取り組んでいる。建物の構造上玄関は家族の同意を得て、施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日入居者の日常の様子などをスタッフ同士が話し合い、虐待が無いように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修などで制度について学習し知識を深め、必要性が生じたときは社協などの関係機関と連携をとり、活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に、重要事項や契約書の中身を入居者様や家族様に説明し、不安な点や疑問点を尋ねている。また質問しやすいような雰囲気作りを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や下駄箱の所に意見箱をおいて意見要望収集の機会を設けている。また、契約時のアンケートなどからも利用者、家族様からの意見、要望を集める工夫をしている。	家族の訪問が多く、運営推進会議や行事の家族参加時の機会に意見や要望を気軽に話し合える関係にある。介護相談員の受け入れもあり、利用者の思いなどを傾聴する機会がある。毎月発行の「さざなみ便り」の一角に利用者個別の近況記入は家族の信頼と安心につながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見を大切にしている。職員会議の場や個人の提案を聞く機会を持つことによって、小規模だからこそ全体に反映できる体制、運営を目指している。	管理者、職員間の信頼関係は良好である。毎月の職員会議では、昼・夜のオムツの当て方や服薬の基本について、食事の仕方、言葉かけ等、あらゆる面のケアに関する意見や提案の意見交換を行い、その後の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って仕事ができるような体制を目指し実践している。職員一人一人の希望に合った勤務体制や、給与の水準を作ることができるよう、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村の研修には積極的に参加している。又、施設内においても毎月テーマを決めて研修を行っている。又研修費の補助制度も作られ、資格等を取得しやすい環境をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会の研修の参加や、圏域内の運営推進会議に互いに参加しあうことによって、サービスの質の向上に向けて取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の話をじっくりと聞き寄り添って受け止めるよう心掛けている。職員が働きかけ、新しい環境になじみ安心していただけるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩みや不安な事一つひとつに耳を傾け、気軽に質問や訪問していただき納得していただけるよう努めている。又素早い対応も心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様の思いをくみ取りどのような支援が必要なのか見極めてサービスを行っている。介護計画を基に職員間で意見交換しながら入居者様に必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は私達の先輩であるとともに、ご家族様が変わって大切なご家族様をお世話させて頂いていることを心にとめ、入居者様が暮らしやすい生活の場を考え、ともに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が面会に来られた時は、ご希望により本人様の居室で過ごしていただいている。又管理者や職員との連絡をしっかりと取りあうことによりお互いに話をしたり一緒に本人について話し合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にはもちろん、ご友人、小さいご親戚の方にも気兼ねなくも来ていただきやすい場となるよう努めている。	馴染みの親戚の方、昔の仕事仲間、入居前の近隣の方、理美容院等の訪問がある。その後も交流出来る場となるように継続支援に努めている。実家へ帰る方や家族と馴染みのスーパーへ買い物や外食に出かける利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることにより、利用者様の会話が弾むよう支援している。利用者様同士の関係を把握し、支えあい和み楽しんでいただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、いつでも相談に来ていただけるように努めている。又、お手紙等のお知らせを送らせていただく中からフォローさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人おひとりの思いや意向をくみとりながら、ご本人様の希望にできる限りより沿ってゆけるよう、外出などの支援を行っている。 地域の行事にもごお一人おひとりに合わせた形で参加できるよう支援している。	職員は利用者の生活歴や暮らし方、希望、意向を把握している。声として上がらないような心の中の声をくみ取るように不安のない生活が送れるよう、コミュニケーションに努めている。把握しづらい利用者には家族の協力を得ながら、自己決定を促す支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの生活歴を、ご家族様やご本人様よりお聞きし、家事や日常の動作などで馴染みの暮らしをしていただけるよう又、残された感覚を大切にしながら努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの一日の過ごし方は様々であり、居室やフロアで自由に過ごされている。ご本人様の意思を尊重し強制はしない。気づいたことは職員間で、又は職員会議の場で現状について共有し検討する時間を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様家族様、職員の間で気づいたことをモニタリングを行い毎月の職員会議で一人ひとり検討して、変化があれば介護計画を変更し作成している。	本人、家族の意向や要望を伺い、サービスの中で本人の変化に気づいた情報は医師、看護師とも連携を取り合って、本人に必要な支援として、具体的な介護計画を作成している。何か変化があれば即モニタリングをして介護計画を変更し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を個人ごとに記録し、申し送りノート、生活記録に記入し、職員間で情報を共有している。変化問題等が発生した時は意見を出し合い対処方法などを検討し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズに応じて、他の社会資源と連携しサービスの多機能に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や、ボランティア地域の中学校、自治会、同業者と協力しながら、地域の行事等にも積極的に参加し四季折々豊かな暮らしができるよう支援している。地域の参加できる行事には積極的に参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医がおられるときは、家族様施設が協力しすぐに医療が受けられるよう関係を築いている。又協力医療機関とも連携を取りながら、定期的に又変化のあった時もすぐに連絡を取り適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の希望を尊重して、これまでの医療機関を基本としつつ、話し合いで併設されているクリニックを協力医として2週間に1回の受診を設け、利用者の健康管理に努めている。緊急時の対応も即適切な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、看護師に入居者様の日常生活の細かな変化や気づきを伝え相談し、利用者が適切な受診や看護が変化に応じて即座に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設からの情報提供はもちろんのこと、出来るだけスムーズな退院できるように、電話や面会時などで病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については入所時に説明しているが、具体的なことについては、なるべく早い時期に家族様と話し合いをしている。協力医療機関や看護師との連携によって、家族様に安心していただいている。	契約時に重度化や看取りに対する基本的姿勢として「重度化した場合の対応にかかる指針」を口頭で説明している。状況変化時には早い段階で家族、医師、看護師、職員が一丸となり家族の意向を重視して同じ方向で支援に取り組んでいる。過去2名の看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の際に急変時や事故発生時などの対策についての研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下と自施設のみと年2回行っている。地域の同業者の避難訓練等にも参加し、避難方法の新たな視点等をもらいながら、地域の方とも協力体制がとれるよう努めている。	年2回、消防署の指導の下、昼夜想定避難訓練と自主訓練を実施している。地域への協力も呼びかけているが職員の数名が事業所から5分以内に駆け付けられる所に居住されている。自動火災通報装置、スプリンクラー、備蓄は整備されている。	夜間1人体制の場合、災害発生した時に、どのような対応をすべきか、災害の種類ごとに職員でよく話し合い、日常的な重要課題として認識し、繰り返えず訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格を尊重し、ありのままを受け止め、プライバシー、尊厳を損なわない言葉かけを行っている。また認知症高齢者とのコミュニケーションについての研修を行っている。また職員会議等で意見を出し合い個人の尊厳を守るための取り組みをしている。	人生の先輩に対して尊厳やプライドを損ねない対応について接遇の研修を重ねている。1人ひとりが寂しくならないようコミュニケーションに心がけ、利用者への配慮に努めている。個人情報取り扱いや保管は適切に事務所の書庫に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人様の意見を引き出せるよう言葉を選んで働きかけている。介護相談員の制度も利用し気兼ねなく相談できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのその人らしい暮らしができるように、毎日の個人の気持ちや体調の変化を踏まえて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについてはお一人おひとりの思いを大切に楽しんでいただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みや力を活かし、入居者と職員が一緒になって準備や食事、片付けを行っている。季節の行事やデザート作りは、希望を聞いたり調理に参加していただき、過程から楽しんでいただけるよう努めている。	毎日の食事は、調理担当の職員が旬の食材を活かして食彩豊かな手作りの食事が提供されている。誕生会、季節の行事の時は利用者個々の力を活かしながら一連の作業に参加し、ちらし寿司やおはぎ、たこ焼きなど作り、楽しい食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を毎日一人ひとり把握し、また食べやすいよう刻んだりとろみをつけるなどニーズに合わせた支援をしている。食事がとりにくい時は協力医療機関とも連携を取り栄養がとれるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きではお一人おひとりに合わせた声掛けや、介助を行っている。また、週一回の訪問歯科の検診で専門的なケアや口腔体操、治療などのニーズに合わせた対応を協力体制のもと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりのプライバシーを守り、排泄の特徴を把握しながら、声掛けをして無理なく気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンの把握をしている。トイレでの排泄や排泄の自立に向けて少し早めの声掛けや誘導に努めている。出来るだけ現状維持できるよう、運動や食事、水分補給等日常生活の過ごし方に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するため毎日の排泄表を常に確認し、便秘にならないよう支援している。薬の使用はなるべく抑え、体を動かしたり食事で予防できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜以外毎日行っている。なるべくお一人おひとりのタイミングに合わせ、楽しんで入浴していただけるよう支援している。	入浴は週2回を基本としているが、夏場は本人の状況、希望でいつでも柔軟に対応している。季節のゆず湯を楽しむ時もある。入浴拒否の利用者には無理強いせず声掛けや日時、スタッフ変更など取り入れながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣や希望、様子を見ながら、安心して休息したり眠れるよう配慮し、声掛けをし支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬の確実な支援と、症状の変化を的確に確認し、報告し、看護師、主治医、薬局との細やかな連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事や、誕生会、地域の行事等で生活が単調にならないように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様お一人おひとりの希望にできる限り合わせ、買い物や散歩等の外出支援を行っている。又季節の行事による外出も随時企画し、実行している。	真夏、真冬の外出は控えているが、利用者の体調を見ながら、日常的にホーム周辺や近くの公園へ散歩したり、近くのスーパーへ買い物に出かけ、出来るだけ外気に触れるよう支援している。また初詣や春の花見、秋の紅葉など、五感刺激の良い機会として楽しめる企画を実施している。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの希望を受け止めその方に 応じた使い方ができるよう支援している。行 事や散歩の時などに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度 など)がないように配慮し、生活感や季節感を 採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を している	照明、壁紙などにやさしい雰囲気を取り入 れ、心地よい安らげる共用空間を意識して いる。季節の飾りつけや草花等も楽しんでい ただけるように飾り付けなども工夫してい る。	ホーム全体はゆったりとして適度な空間があ り、臭いもなく清潔感がある。居間兼食堂の キッチン是对面式で、利用者の見守りとコミュ ニケーションが出来る配置となっている。利 用者が寛げるソファも設置されている。壁に は季節を感じられる利用者と職員の協働の 貼り絵が飾り付けがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った 利用者同士で思い思いに過ごせるような居場 所の工夫をしている	自由に安全に暮らしていただけるよう、ソファ などのセッティングを工夫したり、入居者様 同士で楽しく会話ができるよう工夫してい る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	入居者様が心地よく過ごせるよう、本人の好 みのものや、使い慣れた馴染みのものをで きる限り使っていただく。写真や思い出の品 などを置くなどして安心して過ごせるよう工 夫している。	各居室には利用者個々の身体状態にあった ベッド、冷暖房 防炎カーテン、ナースコール が設置されている。居室には馴染みの家族 写真、整理タンス、椅子、テレビなどが持ち込 まれ、心地よく過ごせるように、これまでの生 活と違和感を感じさせない工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立し た生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの能力、わかる力を活かし、 引き出して少しでも自立してご本人様らしく 暮らしていただけるように支援している。運 動会やレクレーション、様々な施設内の用事 等で本人様のできることを無理のない範囲 でしていただいている。		